

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成24年11月28日)

項目	ページ
1 第10回全国和牛能力共進会における鳥取県の成績について 【畜産課】	1
2 中海干拓農地（弓浜干拓地）の売渡等の結果について 【農地・水保全課】	3
3 高校生と森林組合との交流会の開催状況について 【森林・林業総室】	4
4 第64回全国植樹祭の準備状況について 【全国植樹祭課】	5
5 第4回フード・アクション・ニッポンアワード2012の優秀賞 受賞について 【水産課】	6
6 ズワイガニ漁の解禁と今漁期の見通しについて 【水産試験場】	7
7 首都圏における鳥取県・秋田県共同ハタハタPRの実施について 【食のみやこ推進課】	8

農 林 水 産 部

第10回全国和牛能力共進会における鳥取県の成績について

平成24年11月28日
畜産課


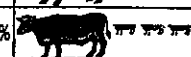


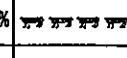




10月25日から10月29日にかけて長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会長崎大会における鳥取県の出品牛の成績は、以下のとおりでした。

1 主な鳥取県の成績

(1) 「全区優等賞、うち一つの区で首席をとる」という目標には及ばなかったが、前回鳥取大会を上回る6つの区で優等賞を獲得した。

(2) 総合成績を示す出品団体表彰(※)では、鳥取県は第7席となり、前回鳥取大会の第6席から1つ順位を下げた。鳥取県は第6席の岐阜県と得点は同点だったが、優等賞3席を2つの区で獲得した岐阜県に惜しくも及ばなかった。

第10回全共における総合成績順位と各県の繁殖雌牛飼養規模

席次 (得点)	首席 (6)	次席 (5)	3席 (4)	4席 (3)	5席 (2)	6席 (1)	計	序列	繁殖用雌牛飼養規模			
									頭数	(比率)	規模模式図	
宮崎	(5) 30	(2) 10			(1) 2		42	首席	宮崎	101,600	15%	
鹿児島	(1) 6	(1) 5	(3) 12			(2) 2	25	次席	鹿児島	130,500	19%	
大分	(2) 12	(1) 5		(2) 6		(1) 1	24	3席	大分	22,200	3%	
長崎	(1) 6		(2) 8	(1) 3			17	4席	長崎	31,200	5%	
岩手		(1) 5		(1) 3	(1) 2	(1) 1	11	5席	岩手	39,400	6%	
岐阜			(2) 8			(1) 1	9	6席	岐阜	8,910	1%	
鳥取			(1) 4	(1) 3		(2) 2	9	7席	鳥取	3,810	1%	
宮城			(1) 4		(2) 4	(1) 1	9	8席	宮城	30,400	4%	
岡山				(1) 3	(3) 6		9	9席	岡山	5,570	1%	

表中の上段括弧書きは獲得数、下段は得点

(3) 種牛の部では、前回鳥取大会と同じく5つの区で優等賞を獲得し、西部からの出品者を中心に3つの区で優等賞6席以内に入賞した。

- 第4区(系統雌牛群) 鳥取県和牛育種組合 優等賞6席
- 第5区(繁殖雌牛群) 鳥取西部和牛改良組合 優等賞4席
- 第6区(高等登録群) 鳥取西部和牛改良組合 優等賞3席

(4) 肉牛の部では、第9区の出品牛の1頭が優等賞6席に入賞した。この牛は霜降の度合いを示すBMSが最高評価の12番(肉牛の出品牛175頭のうち12番に格付された牛はこの牛を含めて3頭のみ)であった。肉牛の部の優等賞6席以内の入賞は第1回岡山大会の「気高」号以来となる。

第9区(去勢肥育牛) 西田佳樹 優等賞6席

※38道府県で優等賞6席以内に入賞した区の数をポイント化し序列をつけたもの

2 鳥取県代表牛の成績詳細

次頁参照

3 今後の予定

11月21日に開催された第10回全国和牛能力共進会鳥取県出品対策部会における今回の出品対策の検証と今後の取組についての検討結果等を踏まえ、第11回全国和牛能力共進会(平成29年に宮城県で開催予定)に向けた新たな取組を進めていく。

出品区	出品牛名号	生年月日	父	母	出品者住所	出品者	鳥取県の成績 (順位)	前回 鳥取県成績	今回 全国成績	主な審査基準	今回目標
第1区	若雄	明好3	H23.3.10	勝安波	よしみ	倉吉市関金町 岸田克巳	優等賞9席 (9/20)	優等賞6席 優等賞13席	首席 大分 2席 岩手 3席 長崎	系統の特色 斉一性(群の揃い)	全出品区で優等賞入賞。うち一つで首席を獲得する。
第2区	若雌の1	せつ1	H23.6.8	安茂勝	せつ	日野郡日南町 高平清孝	優等賞10席 (10/33)	優等賞4席	首席 宮崎 2席 宮崎 3席 鹿児島		
第3区	若雌の2	やすこ	H23.5.25	安福久	ゆづき	八頭郡智頭町 岡恒雄	1等賞7席 (24/33)	優等賞7席	首席 宮崎 2席 宮崎 3席 鹿児島		
第4区	系統雌牛群	しばひめ3013	H23.6.14	21世紀	しばひめ30	西伯郡大山町 小谷茂	優等賞6席 (6/13)	優等賞5席	首席 宮崎 2席 大分 3席 宮城		
		しばともこ	H22.12.13	八重勝	しばひめ12	倉吉市関金町 農業大学校					
		しばひめ384	H22.9.18	金勝忠	しばひめ38	西伯郡大山町 小谷茂					
		しばひめ313	H22.9.12	百合茂	しばひめふく31	倉吉市関金町 農業大学校					
第5区	繁殖雌牛群	第11ひろさかえ	H19.6.10	勝忠平	第31ひろさかえ	西伯郡伯耆町 木嶋泰洋	優等賞4席 (4/15)	1等賞5席	首席 大分 2席 宮崎 3席 鹿児島		
		あやこ2	H18.3.24	勝忠平	あやこ	西伯郡伯耆町 木嶋泰洋					
		はなこ12	H18.3.5	勝忠平	はなこ3	西伯郡伯耆町 渡辺貞男					
		なおひら2	H18.1.27	勝忠平	なおひら	西伯郡伯耆町 宮崎浩樹					
第6区	高等登録群	しばひめ35	H13.6.4	福栄	しばひめ30	西伯郡伯耆町 木嶋泰洋	優等賞3席 (3/17)	優等賞3席	首席 鹿児島 2席 宮崎 3席 鳥取		
		しばひめ38	H17.7.4	第3寿高	しばひめ35	西伯郡伯耆町 木嶋泰洋					
		しばひめ383	H21.6.5	勝忠平	しばひめ38	西伯郡伯耆町 木嶋泰洋					
第7区	総合評価群 (種牛群)	まや	H22.11.5	勝安波	はつみ	倉吉市 大森智司	2等賞1席 (12/14)	1等賞5席	首席 宮崎 2席 鹿児島 3席 長崎		
		ふじせきおかだ	H22.11.3	勝安波	せきおかだ	東伯郡琴浦町 藤井義雄					
		ゆりはくほう	H22.10.26	勝安波	ゆりやすふく	東伯郡琴浦町 徳丸英行					
	総合評価群 (肉牛群)	はっぴい	H22.10.26	勝安波	あきほ	東伯郡琴浦町 内山茂昭					
		伯耆85	H22.11.28	勝安波	ゆめみ	西伯郡伯耆町 前田道夫					
		清勝安	H22.10.26	勝安波	きよみ	東伯郡琴浦町 有限会社とうはく畜産					
第8区	若雌後代検 定牛群	栄青龍	H22.12.26	白兔	ゆきさかえ	鳥取市青谷町 伊藤夏日	1等賞 (9/19)	1等賞	首席 長崎 2席 秋田 3席 岐阜		
		高福白兔	H22.12.12	白兔	たかふく1400	鳥取市青谷町 伊藤夏日					
		安百福	H22.11.1	白兔	はなふじ2	鳥取市青谷町 伊藤夏日					
第9区	去勢肥育牛	冬之波	H22.10.26	勝安波	まふゆ	鳥取市河原町 谷口拓也	2等賞 (61/76)	1等賞、2等賞	首席 宮崎 2席 熊本 3席 岐阜		
		一人薩摩路	H22.10.30	勝安波	れみ	西伯郡大山町 西田佳樹	優等賞6席 (6/76)				
計			26頭	出品団体表彰			7席	6席			

※出品牛の成績は優等賞、1等賞、2等賞に区分され、その中で順位づけされる。最も良い順位は優等賞1席(首席)。

中海干拓農地（弓浜干拓地）の売渡等の結果について

平成24年11月28日
農地・水保全課

県が平成24年8月1日に財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構から取得した中海干拓農地（弓浜干拓地）について、売渡及び貸付の公募を行ったところ、その結果は下記のとおりでした。

記

1 売渡公募の結果

(1) 公募内容

- ア 公募面積 13.32ha (45区画)
- イ 申込期間 平成24年10月3日(水)～16日(火)
- ウ 売渡価格 72万円/10a (標準的な価格)

(2) 申込状況

- ア 申込者 1名
- イ 申込内容 3区画を3年間で計画的に購入
(内訳) 平成24年度 0.31ha (1区画)
平成25年度 0.31ha (1区画)
平成26年度 0.31ha (1区画)

(3) 審査状況

中海干拓農地売渡審査会(平成24年10月24日開催)で、農業経営計画、経営状況を審査した結果、承認。

(4) 売渡予定

- 1区画 平成25年1月に売渡予定。
 - 2区画 平成25年度に1区画、26年度に1区画を売渡予定で、それまでは貸付。
- ※ 売渡は、平成17年以来、7年ぶり。

2 貸付公募の結果

(1) 公募内容

- ア 公募面積 12.38ha (42区画)
- イ 申込期間 平成24年10月30日(火)～11月5日(月)
- ウ 貸付料 年額8千円/10a

(2) 申込状況

- ア 申込者 8名
- イ 申込内容 新規 1名 0.60ha (2区画)
更新(現借受者) 7名 11.44ha (38区画)

(3) 審査状況

中海干拓農地貸付審査会(平成24年11月7日及び14日開催)で農業経営計画、経営状況を審査した結果は、次のとおり。

- ・更新の7名は承認。
- ・新規の1名は不承認。(農業経営計画が未策定、農業技術修得が不十分等の状況で、経営安定が確認できないため。今後、関係機関で計画策定等の支援を行い、見込みが立った段階で干拓農地を貸付ける予定。)

(4) 貸付予定

- 38区画 平成25年1月から12月の1年間の貸付予定。

3 今後の予定

- ・貸付予定のない農地(4区画)については、随時、売渡及び貸付の受付を行う。
- ・今回、売渡にならなかった農地(42区画)については、平成25年7月頃に再度、売渡公募を行う。

高校生と森林組合との交流会の開催状況について

平成24年11月28日
森林・林業総室

近年、県内の高校を卒業し林業事業体へ就職した生徒数は、林業への新規就労者数の1割にも満たない状態となっています。

このため、高校生に対して林業の仕事の実態を知る機会を提供するとともに、教員と森林組合関係者との意見交換や現地視察を行ない、就労上の問題点・改善策等を整理することで今後の施策の実施及び新規就労者の増加につなげていくことを目的に、本交流会を開催しました。

1 日程及び内容等

- (1) 林業の仕事の現地視察及び先輩との意見交換
- (2) 教員と森林組合関係者との意見交換

高校及び森林組合	日 時	現 地 視 察	高校側の参加者
智頭農林高校・ 八頭中央森林組合	11月 2日(金) 午後1:30～4:30	八頭中央森林組合施 業地(八頭町橋本)	森林科学科2年生 (19名)、教員
倉吉農業高校・ 鳥取県中部森林 組合	11月20日(火) 午後1:30～4:30	鳥取県中部森林組合 施業地(倉吉市大立)	環境科地域環境コー ス2年生(13名)、 教員

注) その他の参集者：財団法人鳥取県林業担い手育成財団関係者

2 意見交換会での主な意見(教員、森林組合、担い手財団、県)

- 高校生の中には林業への就労を希望するものの、実際の就職に結びついていないケースがある。森林組合の求人時期と実際の就職活動の時期が合わないのがネックになっている。(教員)
- 林業の実態を知る機会が少なく、イメージ先行で就労した場合などには、就労後に早期に離職してしまうケースが少なくない。(教員、担い手財団)
- 現場は即戦力を求めている。若手就労者の育成については国・県の支援施策(緑の雇用支援事業)も活用しているが、現状として指導する側も作業に追われており十分な指導ができていない。特に、メンタル的な部分のフォローとなるとかなり難しい。(森林組合)
- 問題意識を共有するためにも、このような意見交換会を継続して持つことは重要であると思う。関係機関が連携して林業を魅力あるものにしていきたい。(教員)

3 今後の検討事項

林業の担い手確保及び業界の若返りにとっても、高校生の就労促進は重要であり、今後も、継続的に同様の交流会を実施し、県が進める就労促進施策とのマッチングを推進する。

(参考)

林業への新規就労者数の推移

(単位：人)

項目 / 年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	計
新規雇用者数	24	73	59	46	31※	233
うち高卒者 (割合)	2 (8.3%)	5 (6.8%)	5 (8.5%)	4 (8.7%)	2 (6.5%)	18 (7.7%)

鳥取県森林・林業総室調べ

※H24.10.1現在

第64回全国植樹祭の準備状況について

平成24年11月28日
全国植樹祭課

「第64回全国植樹祭」の平成25年5月26日開催に向け、第7回総会を開催し実施計画中間案を審議するなど、実施内容を決定しながら準備を進めています。

- 第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会第7回総会の開催**

日時	11月9日(金)午後4時～5時
場所	鳥取県立武道館(米子市両三柳)
出席者	会長(鳥取県知事)、副会長(県議会議長、南部町長)等34名
内容	第64回全国植樹祭実施計画中間案について審議
- とうほくとっとり・森の里親プロジェクト**
 - 岩手・宮城・福島から種子を譲り受け県内で1～2年程度育成した苗木で、東日本大震災で被災した東北3県の海岸防災林の復興を支援
 - 種子の引渡しセレモニーを11月15日(木)及び16日(金)に各県庁にて開催
 - 東北3県へ苗木の目録贈呈を第64回全国植樹祭記念式典にて行うことを検討中
- ボランティアセンターの開所とボランティア募集**

委託先	NPO法人学生人材バンク
設置場所	全国植樹祭課内(西部総合事務所)
募集期間	10月19日(金)から12月21日(金)まで
募集概要	対象は16歳以上、募集人員は150名程度
主な業務	案内・誘導、植樹指導、会場美化等
- 一般参加者募集の開始**

募集期間	11月1日(木)から12月25日(火)まで
募集人員	約800名
最終決定	平成25年3月頃を予定
- 大会公式弁当の決定**
 - イラストコンテストで入選した作品に基づき、県内弁当業者3社が試作した弁当の中から1作品を選定、2回目の試食審査会でメニューを最終決定
 - 名称:「食のみやこ鳥取県 森のめぐみ弁当」
県西部の郷土料理「いただき」、カニちらし寿司、白いかと砂丘長芋のかき揚げなど、県産食材をふんだんに利用したメニューで構成
- 協賛の状況**
 - 協賛募集は平成25年4月末までとし、ホームページなどを通じて幅広く募集中
 - 現在までの大口協賛は次のとおり

山陰合同銀行	200万円(9/4贈呈式)
鳥取県森林組合連合会	50万円及び公式弁当の県産スギ材の割り箸7,000膳(10/11贈呈式)
株式会社日新	200万円(10/19贈呈式)
日本たばこ産業株式会社	200万円及びペットボトル飲料1,200本(11/16贈呈式)
- メディアミックスCMの開始**
 - 主に一般招待者の募集について県庁、各総合事務所、市町村役場、公共施設(図書館)のほか、県内の小・中・高等学校にチラシを配布、県政だより(11月号掲載)、新聞広告掲載などでPR
 - 全国植樹祭の周知を図るため、11月25日(日)から12月25日(火)までテレビCM、ラジオCM、新聞広告掲載などによるメディアミックスCMを実施
- 残日計の設置**
 - 12月1日(土) 米子駅に設置することとし、除幕セレモニーを予定
 - その後、県庁、とっとり花回廊にも設置予定
- 当面の予定**
 - 大会計画策定(実施計画)幹事会を平成25年1月中旬に開催予定
 - 平成25年1月下旬に開催する総会で実施計画最終案を審議し、平成25年2月に衆議院議長公邸で開催される第64回全国植樹祭特別委員会で説明・承認される見込み

第4回フード・アクション・ニッポンアワード2012の優秀賞受賞について

平成24年11月28日
水産課
栽培漁業センター

水産課と栽培漁業センターでは、昭和60年代以降に資源が枯渇状態となっていたバイ貝について、稚貝放流等の資源回復に取り組んでいるところですが、この度、天然海域での親貝の産卵を促進するための安価な産卵器の開発とその成功事例をフード・アクション・ニッポンアワード2012に応募したところ、研究開発・新技術部門で優秀賞を受賞しましたので報告します。

1 フード・アクション・ニッポンアワードとは？

食糧自給率の向上を目的に2008（平成20）年に農林水産省が立ち上げた取組で、毎年、国内の事業者・団体などの取組を募集し、優れた取組を表彰するとともに広く紹介し、普及を図ることを目的に活動している。

2 賞の概要

2012（平成24）年6月～7月に、鳥取県栽培漁業センターで開発した安価に作れるバイ貝の産卵器を美保湾の3地区（境港、皆生、淀江）に設置したところ、約1.9億粒の卵を産ませることに成功した。

この取組をフード・アクション・ニッポンアワード2012の研究開発・新技術部門に応募したところ、優秀賞を受賞しました。なお、表彰制度は2009（平成21）年度にスタートし、本年度は4回目。これまでの同部門の受賞は民間企業、大学、独立行政法人で、都道府県の研究機関では初の受賞となった。

◎本年度の応募数

「商品部門」「流通部門」「販売促進・消費促進部門」「研究開発・新技術部門」の4部門で募集され、総計862件の応募があった。

※栽培漁業センターが応募した「研究開発・新技術部門」には80件が応募

◎本年度の表彰

大賞1件、部門ごとに最優秀賞1件・優秀賞5件、その他審査員特別賞等が授与した。

【表彰式】

日時：2012（平成24）年11月2日（金）

午後1時30分から3時まで

場所：有楽町朝日ホール（東京都）



3 背景等

県西部地域では祝い事では欠かせないバイ貝ではあるが、環境ホルモンの影響で昭和60年度頃から資源が枯渇した。県では、平成22年度に「鳥取県バイ資源回復計画」を策定し、稚貝放流等の資源回復への取組を進めており、その一環として産卵器を開発した。近年、漁獲量が回復基調にあり、地域資源としての活用が期待される。

4 今後の取組

産卵促進技術の確立により、今後は美保湾における栽培漁業の実用化に取り組むが、資源が枯渇していた間にバイ貝を食べる習慣が薄れてきており、西部地区を中心に県内における消費拡大に向けた施策も併せて取り組みたい。

ズワイガニ漁の解禁と今漁期の見通しについて

平成24年11月28日
水産試験場

(ズワイガニ漁の解禁)

平成24年度のズワイガニ漁期等の自主的な規制（解禁期間）は、下記のとおり

松葉がに : 11月6日～3月20日

若松葉 : 1月20日～3月10日（昨年度より9日間短縮）

親がに(雌) : 11月6日～1月10日

(今漁期の見通し)

解禁直後（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）：

松葉がに …小～中型個体が主体となり前年並みとなる。

若松葉 …前年を下回る。

親がに(雌)…前年をやや下回る。

漁期全般：漁獲量は前年を下回る可能性がある。

根拠となった第一鳥取丸による調査結果 漁期直前の10月に鳥取～島根県沖合水深174m～441mの海域において、合計26点で着底トロールによる漁期前調査を行った。

松葉がに：出雲沖と鳥取沖で前年より増加したが（表1、図1左）、大型個体は少なく甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となるため漁獲重量や漁獲金額の大幅増加は見込めない。

若松葉：全域で減少しており（図1中央）、甲幅10～12cm台の小～中型個体が少なくなっている。

親がに：隠岐北西沖と鳥取沖で増加したが全体では前年を下回った（図1右）。

漁期全般 調査結果から小中型個体が主体の漁獲となることが予想される。さらに、長期的な漁獲量の変動と水産庁による広域試験調査結果を考慮すると大幅な資源回復は期待できないことから、漁期全般の漁獲量（重量換算値）は前年を下回る可能性がある。

表1 調査海域におけるズワイガニの資源尾数（単位=万尾）

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	前年比
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	4	11	28	28	39	140%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	166	152	179	263	176	67%
親がに（くろこ）	191	184	272	272	249	91%

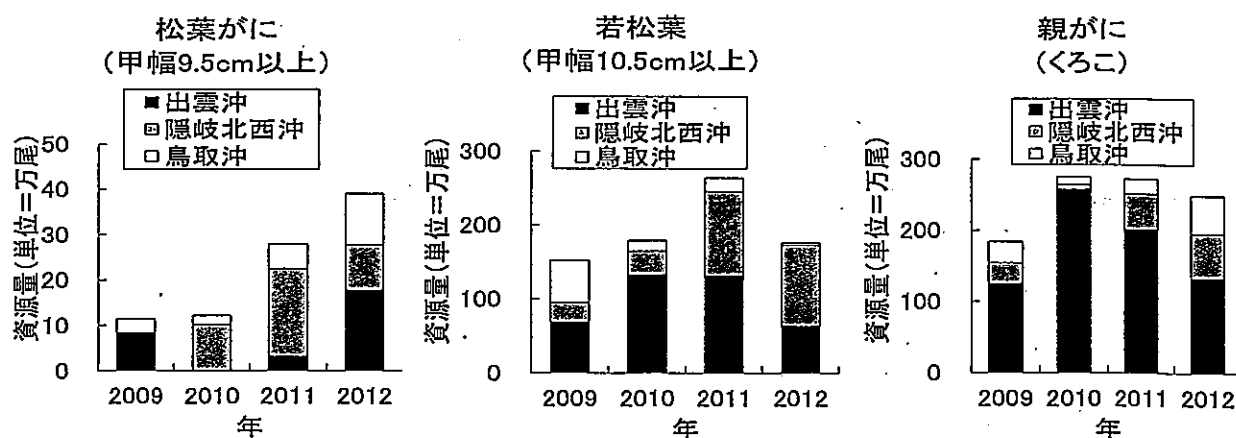


図1 年別海域別の資源尾数